

ふれあいの里公園 山の手倶楽部 藤本 武氏

コミュニティとしての桂坂

コミュニティとしての桂坂



桂坂も20歳になりました

桂坂は京都全体から見ればまだ若い街です。世にいう新興住宅地は相次ぐ多くの入居者を伴って発展拡大していきませんが、私たちの桂坂もロータリーより東地域の開発が進むとともに新たな自治会も生まれ、2008（平成20）年末で3500戸に達するという、大きな街に成長しました。

「まち」の成立

「家並み」が「まち」としての営みをするようになるには、そこに住む人びと同士の間で温かいコミュニケーションの継続が第一です。桂坂には住民同士の交流を深める機会となる行事や自治会における習慣があります。

行事として代表的なものが「ふれあいクリーンデー」、「夏祭り」そして「体育祭」です。また自治会組織を活用して種々の回覧板や文書配布が行なわれ、住民が我がまちの状況を把握しています。

守り育てた財産

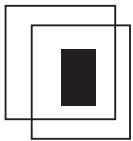
これら「まちの仕組み」は、桂坂の発足当初から当時の自治会組織と熱い意志をもった先人によって立ち上げられ、受け継がれ育てられた財産です。

クリーンデーは「自分たちの街を自分たちの手できれいに」との目的から始まったものですが、それ以上に地域の住民が定期的に共同作業をすることによって、顔見知りになり、気軽に声をかけ、挨拶をする間柄になる効果を生んでいます。

夏祭りは京都の伝統的な夏の行事として続いてきた「地蔵盆」の桂坂版とも言えるもので、これらは私たち桂坂の住民同士のふれあいの場を創出しています。

自治会ルートで、日常展開される文書配布も単に伝達の機能だけでなく、情報を共有することにより連帯感を高め、コミュニティを保つ大切な仕組みです。

しかしながら20年を経た昨今、これらの行事や仕組みに関して一部にはマンネリ化の声も聞かれ、当初の志しを確実に受け継ぎ、本来の機能を果たしているのか、検証してみる必要もあるかと考えられます。



ふれあいクリーンデー

成立ち

桂坂は建築協定のもとに出来た緑豊かな美しい街です。幹線道路の街路樹、石畳の道や緑道は各家の庭の木や花とともに季節ごとに美しく変化し、それを見ながら散歩するのは楽しいものです。

1998（昭和63）年、かえで自治会が「クリーン大作戦」と銘うって、せめて自分たちの周りだけでもきれいにし、又、隣近所が仲良くできたらと、始められたのが、「ふれあいクリーンデー」の出発点です。

各自治会のクリーンデーは桂坂全体に普及し、お互いの自治会同士の「ふれあいの場」となり、桂坂全体の美しい街作りに役立てばとの願いから1990（平成2）年に「桂坂ふれあいクリーンデー」として発足しました。

当時は小・中・養護学校、ふれあいの里、西洋環境開発も参加しました。

第2回の1991（平成3）年からは現在の「統一ふれあいクリーンデー」となり、春と秋の年2回、各自治会一斉に取り組んでいます。



しかし、昨今は住民の高齢化や入れ替わりなどによって、共同作業意識が以前より薄れ、年々参加人数が少なくなっている傾向も見られます。

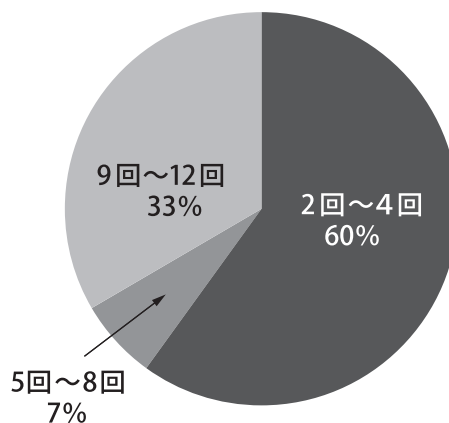
そこで、「クリーンデーの現状と今後のあり方」について考えるために各自治会にアンケートのご協力をお願いしました。



クリーンデーの年間回数

クリーンデーの実施は各自治会とも定着しています。実施回数としては年2～4回が60%を占め、次いで9～12回が33%となっており、冬場の1月2月を除いた年間で実施されています。

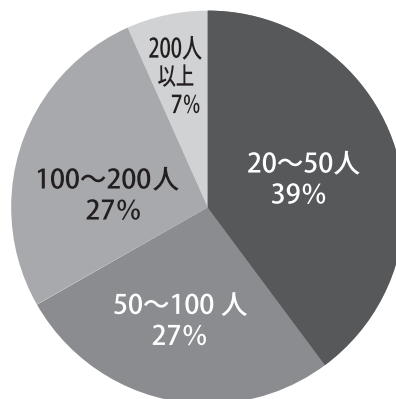
住居番号の偶数、奇数に分けて隔月に実施している自治会もあります。



参加人数

参加人数は20～50名が39%、次いで50～100名が27%、100～200名が同率27%となりました。なかには全戸参加の自治会もありました。

実施回数の多い自治会は1回あたりの参加人数としては少数ですが、年間にわたり分散されています。実施回数が少ない自治会では、1回の参加人数が多い傾向となっています。



運営について

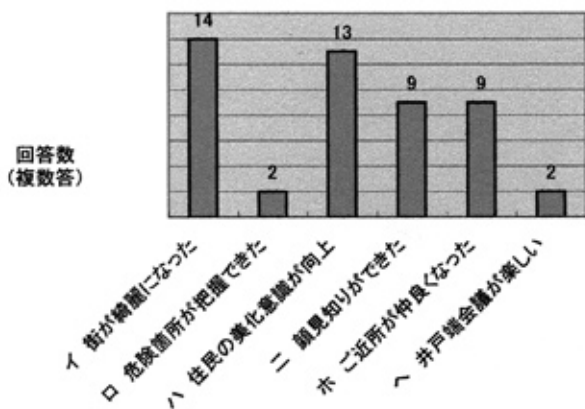
実施回数について各自治会では、概ね現状どおりの回数を考えておられます。清掃箇所の分担については作業の効率性、公平性、清掃域の集中を防ぐために分担されている自治会が80%を占め、大半が今後も現状の分担制を考えておられます。

また清掃域の広い自治会などは、あえて分担制とせず、参加人数や状況に合わせて作業されています。

クリーンデーの成果

「街がきれいになり、美化意識が向上」しただけでなく、「顔見知りができた」「ご近所同士が仲良くなった」など、住民間の親睦や連帯感を生む貴重な機会となっていることがうかがえます。

〈クリーンデーの成果〉



地域による、独自の取組み

「桂坂統一」や各自治会の定例的なクリーンデーだけでなく、独自の企画をされている自治会や機関もあり、一部を紹介します。



西総合支援学校の呼応清掃活動

花と緑の豊かな自然に囲まれた「桂坂地域」にある学校として「地域の一員として桂坂地域の環境保全に役立ちたい」というお考えから、2009（平成21年）5月10日（日）に行われたクリーンデーに先駆け、5月8日（金）に「桂坂統一ふれあいクリーンデー呼応清掃活動」を実施されました。

学習時間帯には生徒さん方と先生方が、また生徒さんの下校後には先生方が総出で、学校周辺の道路の清掃に取り組みされました。（広報『桂坂』141号より）



桂坂の美しい自然は、住民のみならず、桂坂に通ってこられる方々にも支えられていることが実感できます。

クリーンデーの今後

桂坂において、クリーンデーが確実に定着していることは、アンケートからも強くうかがえます。しかし反面、いつも同じ人しか参加していない、参加者が増えないなどマンネリ傾向もあり、今後一層の盛り上がるために、家族ぐるみの参加によって、コミュニケーションの活性化を望む声も聞かれました。

桂坂の美しい自然や街並みを後世に残していくためにも桂坂住民と近隣施設との協力で、受け継いでいってほしいと思います。



桂坂統一夏祭り

夏祭りの道のり

京都の夏は絢爛豪華な祇園祭にはじまり、山々を神々しく照らす五山の送り火を見送って、洛中は夏の峠を迎えます。大枝の丘陵地・桂坂ではまだ熱気の残る盛りに「桂坂統一夏祭り」は開催されます。

街を拓いた当初は、西洋環境開発と、かえで自治会の合同で開催され、活気と期待に満ちあふれた伝説の「夏祭り」となり、統一夏祭りの礎となりました。統一の開催となって15年が経ち、それぞれの自治会の試行や工夫や思いによって支えられてきた「夏祭り」は成熟期を迎えつつあるのではないのでしょうか。



夏祭りの成功を願って

ふだんは閑静な住宅街である「桂坂」。夏の暑さを忘れさせる夏の一大イベントとして、夏祭りを成功させようと、早くから担当役員の皆さんが準備を始めています。祭りの一番楽しみである「模擬店」は食べ物を扱う性質上、安全を第一にし、衛生面や注文数、段取りに気を配り、安全かつ円滑な運営に心血が注がれています。しかしながら月日が流れ、住民の高齢化や入れ替わりなどが進み、しだいに連帯感の薄れなどの問題が、少なからず見られるようになってきた現実も否めないのでしょうか。そこで桂坂入居開始20年目の節目の年に際して「統一夏祭り」をどのように感じておられるか、アンケートを各自治会の会長さんにお願しました。

プログラムの構成

各自治会とも、プログラムの考え方は「大人から子どもまで幅広く楽しめるイベント」を企画されており、参加人数も安定して、毎年イベントとしての積み重ねが定着の要因となっているようです。

プログラムの例では外部から演者を招いての観賞や、ゲーム、福引きなどがあります。

模擬店ではフランクフルト、かき氷、おでん、カレーなどのお馴染みメニューは定番となっています。



運営方法

イベントの運営方法については、手作りのみとするものと、手作りと外部委託の両方を使い分ける方法が大半をしめています。その一方で前例にならったの運営も多数を占めていますが、マンネリであると感じておられる自治会もあります。やはり手作りや新しい企画を生み出していくのはなかなか難しいようです。思い切って外部委託のみに絞り、役員の苦勞の軽減化を図る自治会が出てきているのも、一つの新しい傾向なのかもしれません。

こんな工夫をされています

プロの津軽三味線奏者を招いての生演奏は忙しい裏方でもある運営役員方々も手を休めることなく楽しめるので大変好評です。



(かえて自治会)

3年にかけての運営委員

しらかば自治会の夏祭りの運営は、今年度、前年度、来年度役員予定の方で構成し、前年度役員の方が指導係となって、安全でスムーズな運営ができています。なにより3年間夏祭りの世話をすることにより、「親睦の場」ができることがメリットです。

このような運営方法はあかしあ自治会でも行っています。また、しらかば自治会では自主防災部でも同じような運営方法をとっています。

勇壮な和太鼓演奏

つばき自治会では和太鼓同好会を招いてフィナーレを打ち上げます。



(つばき自治会)

西総合支援学校、授産園とのお付き合い

あかしあ自治会ができた1989（平成元）年の頃は、まだ集会所ができておらず、西総合支援学校（当時は西養護学校）に会議の場を、また夏祭りにはテントやライン引などをお借りしていました。

洛西ふれあいの里の授産園、更生園、療護園からは長机、パイプ椅子、釣下げ提灯、キャンピングテーブルなどいろいろな備品をお借りし、そのおかげで盛大な夏祭りを開催することができた経緯があります。

これらの協力のお礼に「夏祭り」のプログラムを送り、ご招待をはじめたのが交流の始まりです。

ご近所の縁で洛西ふれあいの里授産園にはテント1張りの出店を依頼し、陶芸作品やクッキー、アイスコーヒーなどの販売をしていただいております。



(あかしあ自治会)

夏祭りに宿題できます

さくら自治会では子どもたちと腕に自信ありの諸先輩の方と「木工作」「紙工作」を一緒に行っています。教える楽しさと一緒に作る楽しみ。それを機会に、夏祭りの「おじいちゃんと孫」は増えています。派手な企画ではなくとも、夏休みならではの思い出の1日として残っていくのではないのでしょうか。



(さくら自治会)

これからの「夏祭り」によせられたご意見

多くの自治会は従来どおりの夏祭りに満足されていますが、「今後の姿」を模索中でもある「統一夏祭り」です。開催単位も「数ブロックの分割」や「全自治会合同での1カ所開催」、「隣接自治会での共催」などを行い、お互いの不得手とするところを補いあえるような形での夏祭りも一つの方法と考えておられる自治会もあります。

将来「より楽しい、集いやすい夏祭り」にするためには、高齢化を視野に入れつつ、「桂坂版の地蔵盆」として、「昔ながらのしみじみとした『夏祭り』へ変わっていくのではないか」との意見もありました。

桂坂に生まれ育った子どもたちの「ふるさと」としての「夏祭り」は記憶に残り、桂坂に住まう人と人をつなぐ架け橋となっていきたいものです。



桂坂の広報活動

大切な広報物の配布

私たち住民がコミュニティを形成し、安心して且つ充実して日常生活を過していくための大切な仕組みとして、広報活動が挙げられます。

自治連合会や行政から定期的に行き渡る発行される広報紙、自治会関連や行政から適時発行される回覧文書、桂坂各種団体からの広報や回覧物など、桂坂には非常に多くの広報関連の文書が各戸に配布、回覧されています。日常ごく当り前のように流れている情報であるがため、私たちは、ともすればその機能の大切さを見失いがちになりますが、忘れてはならないのは、これは私たちが作った仕組みです。

広報手段の中で主なものを取りあげてみます。

自治連合会広報『桂坂』

自治連合会発行の広報紙『桂坂』の前身『桂坂自治連合会だより』は1990（平成2）年12月10日に創刊されています。当時は現在のような大きさでなく、A4版1ページのみで、手作りの素朴さそのものでした。以来2008（平成20）年12月で138号に至り、桂坂学区全般にわたる様々な情報を掲載し、私たちの日常生活のベースとなる広報紙として定着しています。ちなみに、創刊号の巻頭記事は「第1回ふれあいクリーンデー成功裡に終る」でした。

広報『桂坂』の創刊以来の各号は合綴され、各自治会館、京都中央信用金庫桂坂支店、ふれあい会館などで見ることができます。機会を見つけて一度ご覧になっては如何でしょうか。最近桂坂に来られた方は、我がまちの成長過程を知ることができ、桂坂にお住まいになって20年近くになる方は、当時の思いが懐かしくよみがえってくるのではないのでしょうか。



自治会広報

各自治会においても独自に広報紙が発行されています。

かえで自治会、さつき自治会、しらかば自治会、あかしあ自治会、にれのき自治会、もみのき自治会など、各自治会の発足を機に広報紙を発行され、より身近な情報を伝えています。

何れも自治連合会広報紙が発刊されるよりも早く、かえで自治会の『かえでニュース』は1988（昭和63）年6月に、さつき自治会の『桂坂・さつきニュース』は1989（平成元）年5月にそれぞれ創刊され、かえで自治会の発足当時のビデオや、さつき自治会広報紙の創刊号を見せていただくと、自分たちの自治会が立ち上がった喜びに溢れた映像や記事が掲載され、貴重な記録として遺されています。他の自治会においても、定期的または適時の何れかには広報文書が発行され、より身近な情報を伝え、その折々に発生した課題について、住民間の情報共有を図る活動をされています。

できれば簡略な形でも各自治会で定期的な広報紙を発行し継続されることが、コミュニティ醸成への大きな効果となるのではないのでしょうか。



回 覧

もっと日常的な情報伝達としては、回覧文書があります。身近な自治会内のお知らせ、桂坂各種団体からの「お知らせや行事参加の案内」、「防災、安全防犯」等に関する情報や注意喚起等々、毎日のように回覧文書が各戸を渡っています。

回覧によって伝えられる情報は、定期発行の広報とは性格が異なり、私たちが期限内に対応しなければならぬ事柄や緊急性のある情報が多く、定期発行の広報以上に注視する必要があります。

回覧は「迅速に」「正確簡潔に」に伝えることが、その使命です。

人手による配布でコミュニティづくり

このような桂坂地域で発行される広報、情報の全ては、自治会役員、各種団体の世話役の方々など、住民の手によって各戸に配布され、お隣りへと回覧されています。多くの配布物や回覧物が重なり「本当に面倒」との不満や配布方法の改善を求める声を聞くときもあります。

しかし私たちが各戸にお届けする機会こそが、コミュニケーションを気軽に持てる貴重な機会ではないでしょうか。

世はインターネット情報の全盛です。わがまちでもいずれホームページを持ち、情報の発信や交換をインターネット上で行なう時代も近いと考えられます。

しかしそのような時代になっても、お互いが対面して情報を伝え、話し合うことが、コミュニティ形成の原点であることには変わりありません。

コミュニティの充実に向けて

桂坂のコミュニティ形成を、クリーンデーと夏祭り、広報活動に代表させてその現状を振り返ってみましたが、いずれもマンネリ化や運営上の問題の声は聞かれるものの、住民の生活に密着したコミュニティづくりの仕組みとして定着し、今後の継続に向けてより充実させたいとの、努力、工夫を伺うことができました。桂坂で生活する上での「楽しみ」に成長し定着しつつあるといえます。

また、桂坂地域の広報や回覧文書、行政機関からの広報配布も日常生活の安全、安心に欠かすことができないコミュニティづくりの重要な仕組みです。

「美しく住みよいまちづくり」「住民で計画実施する楽しい行事」、これらは全て、わが桂坂の「地域コミュニティ」の礎になっていることを20年の機に考えてみてはいかがでしょうか。

